

## 教養特別講義2の昨年度報告および本年度の状況と展望

齋藤 慶子

「教養特別講義2」は、本学創立者成瀬仁蔵が担当する講義として設けられた「実践倫理を」原点としており、日本女子大学に入学した全学生が履修する必修科目として2年次以上を対象に開講されている。本講義の目的は、専門分野の学問研究に立ち向かうにあたり、広い倫理性に基づいた高い識見をもって、人類の未来に創造的に自己実現を果たしていく人材育成をするとともに、現代を生きる女性のキャリアを十分に伸ばすことにある。

講義内容は、2年次以上を対象とした「教養特別講義2-I」で「1. 女性のこころとからだ」、「2. 現代文化の中の女性」、「3. 女性と職業」、3年次以上を対象とした「教養特別講義2-II」で「4. 家族と女性の生き方」、「5. 女性と社会」、「6. 女性と世界」の6つのテーマを掲げ、学内外から講師を招いて講演会を開催している。さらに、「教養特別講義2-II」では成瀬記念館を見学し、その上でそれらに関して各レポートの作成を課題としている。

講師の選定にあたっては、実施する前年度の教養特別講義2委員会委員と学生委員、および現代女性キャリア研究所がテーマに則って候補者を推薦し、そのうち特に学生委員の推薦する候補者を優先して交渉順位を決め、講師候補者との交渉を行った。

2020年度は、コロナ禍による緊急事態宣言が発令されているなか、新年度が始まり、一部の学外の先生方による講演は見送らざるを得ない状況となった。これを受け、前期は、課題図書もしくは前年度の同テーマ講演会の講義録を読んでレポートを提出するという代替措置をとり、後期は講演内容をビデオ収録し、それを学生に配信する方法での授業実施となった。こうしたなか、篠原聡子学長をはじめ、NPO法人代表、フリーアナウンサー、女性活躍推進コンサルタント、ジャーナリストの方々にご講演をいただいた。講師の方々は、ご自身の経験などをふまえて、女性を取り巻く社会状況の変化や、そうした変化にどのように対応していくか等についてお話ししてくださり、学生たちは大変興味深く拝聴し、多くの質問が出された。

2021年度も、引き続きコロナ禍での授業実施となり、一部、対面授業が再開されたものの、教養特別講義2では「講演会」実施という科目の特質上、2020年度後期と同様に、講演動画を配信により視聴する形式で実施することとなった。篠原聡子学長をはじめ、医師、弁護士、大学教員、ジャーナリストなど様々な分野で活躍されている方々に講演していただくことになっている。

2021年に創立120周年を迎えるにあたり、目白キャンパスへのキャンパス統合計画とともに、新たな時代に対応したカリキュラムの検討が行われ、これまで1～3年次の必修科目として自校教育とキャリア教育を担ってきた「教養特別講義1、2」は、自校教育に特化した1年次の必修科目「教養特別講義」として設置されることとなった。今後は、日本女子大学の歴史を振り返るなかで、在学生にとってのロールモデルとなる女性たちの活躍を知り、学生のアイデンティティ形成に資するカリキュラムとなる。本講義を通して得られた知識や経験が、学生たちの輝かしい未来の礎となることを切に願っている。

(さいとう けいこ 人間社会学部教育学科准教授・自校教育委員会委員長)